

東京歯科大学同窓会報

明治百年に際し

歯科界をおもう

田丸 将士

今年には明治百年に相当するとのこと、之を記念するための行事が計画されていることである。

明治の時代は近世日本史にとって、大きな意義のある時代であったことは今更言うまでもない所である。政治、経済、産業、教育、軍事力、その他社会全般に亘り大変革が行われ閉鎖的な封建社会から開放的な近代社会となり、世界の先進国に備するに至り、敗れたりとは言え第二次世界大戦で世界を相手に戦う程の強大な国家になったことは偉とすべきであらうと思う。

之を歯科社会から眺めてみると、明治以前から日本流の歯科、特に補綴に関する技術が存在した事は確かであるが文献を欠くために学問的に肯定することは出来ない。そのような不毛の地の中から、今日の歯科医学、歯科技術、歯科教育、歯科法制、歯科医師団体を作り確固たる歯科医師社会を築きあげた先覚者の慧眼と辛苦と努力とを思わずにはいられない。

最も尊敬さるべき先覚者は申すまでもなく高山先生、血脇先生であり、更に血脇先生を助けた奥村、花沢、水野、早川先生等の所謂血脇門下の四天王を除いて考えることは出来ないのである。

往時の歯科界は大先生の下に門下生が集り一派をなし、これ等の各派が集って歯科社会を形成していたわけで、中世の身分制社会のギルドの社会そのままであった。このような姿では社会的発展を期待するわけには行かないのは当然である。

そこで血脇先生は学校教育によりギルド社会を打破し近代社会を建設するための巨歩を踏み出されたものであろうかと思ふ。特に血脇、奥村、両先生は歯科医師団体の結成、運営に努められ、学会、歯科医師会、学校歯科医学、同窓会を育てるため異常な努力を払われたのは広く人の知る所である。

わが同窓会は結成以来七十二年、発展に発展を重ねて今日の大をなすに至ったわけであるが、新たな難問題は後から後から襲いかかって来る。要するに一般社会の複雑化に伴い歯科社会も複雑化して来るのは当然で一瞬たりとも安閑としてはいられない。唯々前進あるのみであるが、そのためには全會員の力の結集に待つより外に方法がないのである。

明治百年の新春に当り幾多の先覚者に感謝を捧げ、會員諸氏の御健康と御多幸とを祈ると共に、御協力を切に御願ひする次第である。

昭和四十二年元旦

お知らせ

●二月講演会

◇日時 二月十九日(日曜) 午後一時より
◇場所 母校(水道橋) 第一教室

◇海外出張報告
渡辺 富士夫 教授

◇欧米の「補綴」を中心として
鶴 養 弘 教授

◇特別講演
立正大学教授・信州大学医学部講師
医学博士 穴田 秀 男 氏

◇歯科における診療過誤とその対策

最近、診療上のトラブルから裁判沙汰になった例がしばしばあるようです。われわれも、いつ、そのような事態に遭遇しないとも限りません。そのような場合、最初の措置の適否が爾後に重大な影響を及ぼすことは明らかです。演者は、その方面のエキスパートであります。この機会を逃すことのないよう、御参集の程おすすぬ致します。

●東京歯科大学学会例会

◇日時 二月十八日(土) 午後一時より
◇場所 母校(水道橋) 講堂

●日曜セミナー

好評の日曜セミナーを會員の要望にこたえるべく次のように年間スケジュールを決定しました。奮って御参加の程を!!

月 日	課 題	講 師	定員
三月十九日	前歯部補綴の理論と実際 (講義とデモストレーション)	羽 賀 通 夫 教授	30名
四月十六日	矯正における診断 (やさしい矯正とむづかしい矯正)	関 根 弘 教授	30名
五月二十一日	矯正における処置 (やさしい矯正とむづかしい矯正)	瀬 端 正 之 助 教授	30名
六月十一日	鑄造と精度 (夏期講習) 追って発表の予定	西 口 定 彦 助 教授	30名
七月	歯科医に必要な顎、顔面外傷の診断と処置	金 竹 哲 也 教授	30名
八月十三日	新しい材料の理工学的評価	中 久 喜 喬 助 教授	30名
九月十七日	前歯部充填のすべて (講義とデモストレーション)	大 森 清 弘 助 教授	30名
十月十五日	小児の補綴 (講義とデモストレーション)	金 竹 哲 也 教授	30名
十一月十九日	歯科に必要な隣接医学	高 橋 重 雄 助 教授	30名
十二月十七日	受講料 各課題につき一名三千円(当日ご持参のこと)。 一、申込締切各開催日の一週間前(但し、その以前に満員の場合には直ちに締切ります)。 一、詳細な実施内容は追って発表いたします。一、申込先 東京歯科大学同窓会事業部	町 田 幸 雄 教授	20名
		市川病院各科 教授	20名

恒例 新年交歓会開かる

◇一九六七年元旦、小雨もよいの水道橋、母校第一教室におい◇
 ◇て参会する同窓、約百名、午前十一時より米沢和一教授の◇
 ◇司会によって開催された。吉例にしたいが「君が代を一唱◇
 ◇し、つぎのような挨拶がつづきながやかなうちに終始した。◇

◇杉山学長挨拶

過ぐる年の出来事をふりかえり、次のように新年に対する抱負を述べられた。

○講座を増設したい。

○大学院の定員を若干増加する。

○学校裏に建築中の千代田工業の四

名派遣する。

○九月には病理の田熊助教授をスコットランドで開かれる歯髓に関するセミナーに派遣する。

○その他、明年以降講師、助教授の若手を海外に派遣したい。

以上のように本年の構想を発表された。

ついで田丸会長

は新年の挨拶と決意を披歴された。

◇田丸会長挨拶

「明治百年を迎えるにあたり、この間に母校は、六畳二間の学校から今日の大学に発展した。そして今後



階約40坪の室を同窓会に提供したい。

○建坪約10坪の七階の建物を建設し、研究室、標本室その他にする。

○米沢和一、上条雅彦、山本又雄の三教授を海外に派遣する。

○長尾教授を台湾の学会に一月五日出張させる。

○一月四日に、竹内教授はローマに朝日新聞主催の健康優良児たちの団長として出発する。

○四月には、京城で開催されるアジア大平洋歯科会議に学内より5も

学校と同窓会は車の両輪で二者一体となって益々発展させるように、今年の任期一杯まで渾身の力をかたむけてこの目的にむかって進みたい」

以上杉山学長、田丸会長の挨拶につづき榎本美彦名誉会頭の音頭で大学、同窓会の発展と福島先生の叙勲を祝して乾杯した。

さらに、福島先生は「歴史はくり返すということからは十一年目を迎えた若造ですので今後もう少し働かせてもらいます。おたがいに健康に留意して母校のためにつくしたいと思えます」また、渡

辺日本歯科医師会副会長は「母校を中心に政治的にも、学問的にも、経済的にもあらゆる面で全同窓の努力を集結して皆さんおおいにやりましよう」と挨拶されるなど年

頭にあたり母校と同窓会の発展のために決意を新たにした。しばし懇談した後、鈴木芳太郎教授の「鶴亀」の謡い初め、長谷川新副会長、ベントクラブの堤先生、衆院選挙を迎え多忙をきわめている中をかけたつた鹿島参議院議員など新年の挨拶をされた、また昨年末帰国された鶴養・渡辺両教授は「旅行の成果をかならずや母校のために生かしたい」と共に挨拶された。

終りに大学、同窓会の方才を溝上



名譽教授の発声に全員唱和し、大井副学長副会長の「反省は出発点、業界、大学、同窓会の発展のために頑張らましよう」という閉会の挨拶で決意も新たにした。正午冷雨の中にそれぞれ散開した。

予告

○叙勲者、褒章受章者祝賀会及び同窓懇親会(仮称)開催予定
 ○時期は、気候の最もよいと思われる五月十四日(日)予定

本部短信

◇行事

12月8日 臨時役員会
 12月10日 定例役員会
 12月27日 母校教授との懇話会
 1月1日 新年交歓会
 1月16日 本部学術委員会
 1月17日 会報編集委員会
 1月18日 医政部第二部世話人会
 1月19日 定例役員会
 1月27日 医政部第二部世話人会

◇役員出張

11月26日 山梨県支部総会田辺理事
 12月12日 日本橋支部総会田丸会長
 12月18日 茨城県支部総会田丸会長
 1月11日 千代田支部新年会
 長谷川副会長
 1月14日 世田谷支部臨時総会
 田丸会長、大井副会長

1月22日 品川区支部総会田丸会長
 1月28日 神余川支部新年会
 五十嵐理事、山崎理事
 1月28日 品川区支部総会田丸会長
 1月30日 芝支部総会 田丸会長

◇会員の榮譽

紺綬褒章受章 沢口源作君
 ◇評議員委任

兵庫支部 松村正澄君
 青森支部 石山芳雄君
 品川区支部 依田清君
 ◇支部長交替
 青森支部 浅田喜三郎君

本部より会員の皆様へ

本年度の各部の方針概要について

総務部

- 一、同窓会館建設については、評議員会、総会の意向に従い、大学当局と充分連絡をとって、前むきの姿勢で研究する方針である。
- 二、福島秀策先生ならびに同窓の叙勲者、褒章受章者の祝賀会及び同窓懇親会を五月十四日に開催すべく大学当局と相談立案中である。
- 三、大学との緊密化をさらに深めためため努力する。

事業部

- 一、年間スケジュールの発表
まづ、日曜セミナーの実施（本紙第一項参照）
- 二、二月、六月、十一月に講演会を開催する（二月講演会については、本紙第一項参照）
- 三、夏期講習会を七月に開催する。
- 四、地方会員のため、日曜セミナー形式のもの地方出張開催の具体化を検討中である。
- 五、昨年依頼した学術委員の意向を具現するよう努力する。

医政部

- 一、事大思想を排し、民主主義に徹する。
 - 二、不断の研究により医政に理論的根拠を与え、社会的説得力をもつよう努力する。
 - 三、権謀術数を用いず、公明正大に事を処理する。
 - 四、派閥精神を排し、機会均等の下に社会的調和を計る。
 - 五、本会の威信高揚に努める。
- 右の目的を達成するため、資料の蒐集、分析、整理等の調査。医政研究会による諸般の研究、政策の立案。資金の提供、定款の解釈等の援助その他全般的活動を一層強力に推進する方針である。

会計部

- 一、会費値上げについて
昨年の総会の議決にしたがい、詳細にわたり検討し、理事会の議を経て、値上げ額は千円と決定した。
 - 二、入会金
推薦会員は五千円とし本年度より実施する。
 - 三、母校卒業生は昭和四十三年より五千円とする。
- ただし、これは明年度（昭和四十三年度）より実施するものである。

共済部

弔慰共済金は、従来の三万円を、会費値上げにより五万とした考えである。その他についても、鋭意研究中である。

編集部

会報の充実をはかり、毎月発行。あるいは、雑誌形式に改めるための詳細な立案、検討を行っている。

◇以上の他にも、細かい事項で大切なことが沢山ありますが、あくまでも会員のため、本会発展のため懸命の努力をいたすつもりでおります。

会員各位の御支援をお願いいたします。

◇次号原稿締切は三月二十日

母校より

財団法人ライオン歯科衛生研究所
本学学位規定運用内規による
研究機関として認定

かねて、本学に同研究所が学位請求論文を提出し得る研究機関として認めて貰いたい旨の申請を提出していた。本学はそのために小委員会を作って検討していたが、同委員会を再度にわたる視察の結果、先般概ね可なる旨の報告を行ない、12月12日の研究科委員会はこれを容認しうる機関として認定することに決定した。

人事

非常勤講師
小島 薫正（組織）41・12・14

卒業証書授与式

- ◇東京歯科大学 三月二十五日（土）午後一時三十分より
- ◇東京歯科大学衛生士学校 三月二十七日（月）午後一時より

辞職

- 教授 中島 哲夫（市病外科）
- 講師 田辺 雅久（市病整形）
- 助手 小野寺寛造（矯正）
- 副手 笠原諒助子（矯正）
- 副手 明楽 以久（小児歯）
- 副手 池田 洋洲（小児歯）

専攻生採用

- 土橋 康男（法歯）41・12・14
- 鈴木 康夫（病理）41・12・14
- 田中 久雄（衛生）41・12・14
- 福島 直（解剖）41・10・16
- 第二専修科入学
林 秋山（保存）42・1・4

◇学位受領者紹介◇



植田 昭夫君
昭和三十三年卒
解剖学教室
「正中矢状平面を基準にして画かれた等高線図法による日本人永久歯の形態学的研究」歯科学報66巻3・4・5号



井上 長生君
昭和三十三年卒
解剖学教室
「日本人胎児深頸リンパ節の解剖学的研究」歯科学報66巻4・6号



伊藤 博夫君
昭和三十六年卒
薬理学教室
「乳児栄養に関する実験的研究」歯科学報66巻9号、日本小児科学会雑誌70巻9号



小幡 哲夫君
日大歯学部卒
微生物学教室
「口腔内嫌気性 Corynebacterium について」歯科学報66巻10号



太田 寛君
昭和三十一年卒
口腔衛生学教室
「乳歯脱落と永久歯萌出の生物統計学的研究」歯科学報66巻10号



田島 篤治君
昭和三十三年卒
補綴学教室
「有床義歯の均衡と人工歯の排列および削合との関係について」歯科学報66巻8号



吉井 英祐君
昭和二十五年卒
保存学教室
「ネオパラホルム pasta を以ってする乳歯髓失活法に関する臨床病理学的研究」日本保存歯科学雑誌9巻2号

指導及び主査 上条 雅彦教授

指導及び主査 竹内光春教授

指導北村勝衛教授、主査関根弘教授

指導及び主査 関根永滋教授

鈴木和男

「はじめに」

今から三年前の、昭和三十九年四月一日には、本学に日本最初の歯科法医学研究室が設立されて、私は、その重責をになつて歩き初めた。早速、歯科領域の特殊分野を開拓する希望をもって、その研究基本的針路を定めるために「法歯学」を上梓して、これを世に問うた。幸いにも、翌年四月には、日本大学歯学部にも同様の教室ができ、他の歯科大学でもその準備をしていると聞く。斯学発展のために誠に同慶の至りである。

いよいよ日本の法歯学も夜明けを迎えたわけであるが、一体、諸外国ではどんな風に研究されているのだろうか。こんなとき、十一月初めに、コペンハーゲン Dr. S. Keiser-Nielsen から、来年八月に開かれる第四回国際法医学学会に出席して講演して欲しいという公式招待状が舞い込んだのである。しかし、先立つ

ものは何とやらで、若い私の胸はかきむしられる始末。思い切つて恩師

古畑、上野両先生に相談の結果、日本法医学会理事会の推せて、日本歯科学議に日本代表として申請されたが、その運に洩れ、国費の補助を受けることはできなかった。このとき、杉山学長はじめ教授各位の御支援によって、私は海外出張を命ぜられ経費一部を大学側で負担して下さることが決定した。その時は、すでに国際会議のある翌四十一

年の正月であった。大至急で、講演抄録を作り、期限にすべり込みで間に合わせ、以後出発前夜まで準備に追われて、タイプを打ちまくった。

とにかく、日本の法歯学 Forensic Odontology も陽の目をみて、世界に躍り出たわけである。なお会報の幹事から学問以外のことについて、何か書けというので、思い出した儘をつづつて責を果したいと思ひます。

「いよいよ海を渡る」

うとうとしたと思ったら、もう北極圏の水原を真下にした雲の上に浮かんでいる。飛んでいるというより、むしろ浮かんでいるという表現がピッタリする静けさである。

こんなところで、外国でよく起る「航空機爆破による保険金詐取」という事件でも起るものなら、それこそ万幸事、一巻の終りである。死体などは、バラバラにされて、水流のかげに消えてしまふだろう、と思うと身ぶるいする感じだ。そんな

気持と関係なく、窓の外には、真ん丸の虹が美しい七色に映じて浮かんでいる。生きていくことは素晴らしいものだと思ひ改めて感ぜられた。世界一周の一人旅なんて考えたこともなかったのに、意外に早く実現し、経験豊富な先輩の話は聞いてはいたものの、何といても心配や不安があった。しかしもう矢は放たれ、現に外国人に混じつて飛行機に乗って動いているのだ。よし、男は度胸と心に決め込んで、馴れぬ英会話も強心臓を駆使して強行に及ぶと、こちらの誠意は通じるものだ。

羽田から出発した途端に予約席がなくなりかけ、アンカレッジでは完全に席がふさがれてしまった。パーティーに談判したところ、First Class に席をとって呉れた。お蔭で飲み物などがすべて Rob. Economy Class とちがって、北欧美人のステューデスの笑顔も、一段とあやかで異なる感じが楽しい。彼女が日本の着物でサービスに努める。襟の具合をちよつと直してやったら、親しみが増した。コペンハーゲンのカストラップ空港に到着するまでは、楽しさで一杯。カストラップ空港には、SAS の日本人駐在員が迎えに

来た。税関は、羽田とちがってフリーパス。荷物を預けて、次の出発までの時間に航空会社のサービスで、スチームバスに入つて食事をする。コペンハーゲン市内のスチームバスでは、外人と一緒に裸になった。私は毛髪の研究をやっているためか、外人の裸体(註:男性です)には学問的な興味を覚えた。

人間も裸になると、急速に親しくなるもので、衣を着せるとみにくい葛藤がでてくるものだと痛感した。

肌で知る外国人の親切(たとえ見せかけであっても)は嬉しい。「日本人は身体が小さいが……」と件の外国人は、私の下半身をのぞいた。この男、日本の浮世絵で曲解していたらしい。いやな奴!

とにかく、身体を清めて朝食となる。ヨーロッパに踏み入れて初めての食事なので、夢中で平らげ、水の代りにミルクを沢山飲んだ。案内役のスチュワードが精一杯のサービスをしてくれる。時間が来たので再び空港に行き、ストックホルムに着て下さる。地獄で仏に会うという

が、正に仏さままで光々しさが溢れていた。

高添先生の案内で、街の要所々々を見て廻り、スカンセンのソリデンというレストランで、彼の友人 E. Fogell 教授御夫妻に会う。すばらしい人だが、私は、着いたばかりの疲れと、初めての外地での空気でフラフラの状態。Fogell 夫妻の車で市内の夜をドライブ、ついにホテルまで送っていただいた。

「学 会」

八月九日から、ストックホルム市のホルケットハウスで開かれた第二回交通災害医学国際会議には、世界各国から約五百名の専門学者が参加して、各国悩みの交通災害に関する諸問題とくに救急処置について活発な討議が十二日まで続いた。

私は、日本交通科学協議会より、日大医学部の西川教授と共に、この会議に派遣されたが、他に災害医学会より日本人医師の団体参加者が二十数名おられたことは、大へん気を

強くした。十一日夜には、オペラハウスで大懇親会が開かれ、各国教授達の中で、ダンスや会食に打ち興じた。ブルガリヤの教授は、私に香水を下さり、「夜、街を歩くときこれをつけて行きなさい。必ず若い女性

性がダウンスするから……」とけしかけた。実験の結果は、概して失敗に終わったが、知り合いになったフランスの Loche 教授、ベネズエラの Rafael R. Pineda D. Jesus 軍医大佐、ニューヨークの Helpern 教授や、会長の Gerin 教授 (カーネギー)、ブルガリヤの Luknow 教授らの親切によって、ストックホルムの夜は印象的な素晴らしさを加えることができた。

学会中、カロリンスカ研究所の法医学教室を訪ねたり、法歯学の Dr. Frykholm の部屋で談合したが、何れも有意義なヒントを得ることができた。ストックホルムに別れを告げて、オスローに到着し、その名もホテル・バイキングに身を休めた。市内の宮殿から、バイキング船、コンチキ博物館まで歩き廻った。ノルウェー人も、ストックホルムで見たスウェーデン人と同様に区別のつかぬ位

で、行き会う同様に、ことごとく美人の範疇に入る素晴らしさ。よく、北欧は S. びに開放的であるというが、仲々実地調査をする時間もなく、ホテルに戻るとクタクタ。手紙を書いて翌日のプランを練ると、もうスヤスヤという日が続く。とにかく一人旅では勿体ないような風景に、ヨーロッパにおける最も豊かなスウェーデン

を歩いて見ただけで、こんな所に二、三年住めたら、さぞ楽しいだろうと思つた。(つづく)

東京歯科大学同窓会会員名簿 付録(その7)

【現住所変更及び住居番地変更】

福重森次大3	長崎県長崎市若葉町13-5	長崎(4)2402
大森保大8	岐阜県郡上郡大和村剣254	
宮本正治大9	(自)埼玉県深谷市東大沼里林353-3	
	(診)埼玉県深谷市仲町322 宮本治方	深谷(71)0595
鶴岡清一20.9	(自)東京都荒川区西日暮里2丁目52-11	(891)5325
	(勤)東京都新宿区角筈1-814 二幸ビル内三越診療所	(352)3111内線87
富田卓児26	岩手県盛岡市下野川字小屋塚頭2-4	
並木俊雄29	(診)東京都千代田区大手町1丁目5-7 経団連会館並木歯科	(279)1829
吉田和子29	(自)東京都文京区湯島4丁目10-12	(811)4462
	(勤)三越診療所	(352)3111内線87
駒ヶ嶺克吉34	宮城県仙台市旭ヶ丘4丁目12-33	
草谷金太郎35	宮城県牡鹿郡牡鹿町牡鹿町診療所	
高橋是崇36	秋田県秋田市仲通り3丁目4-58	秋田(2)2308
勝田英和37	(診)東京都中央区銀座西6-5 岩月ビル3階	
堀江典子37	東京都世田谷区玉川奥沢町3-52 自由ヶ丘第五コーポ410	(703)7561
池田武38	千葉県佐倉市上志津字入の郷1,148	
三門雅文38	埼玉県上尾市大字原市原市団地4街区20号棟203号上尾(71)0966	
石田鉄男39	兵庫県宝塚市仁川榊塚46-54	西宮(51)1108
太田俊39	青森県弘前市大字萱町25 斎藤万吉方	
奥村康久39	東京都江東区深川門前仲町2-11 イトウ荘内	
河内隆男39	千葉県市川市真間3丁目11-13 長谷川荘	
竹山隆芳39	静岡県浜松市天竜川町73	
神戸一明40	長崎県佐世保市相浦町152	
堀内守和40	神奈川県小田原市栄町2丁目13-41	
松岡忠40	島根県邑智郡羽須美村下口羽1,166	
河合貞吉教	東京都豊島区東池袋2丁目27-19	
秋本富種推	福岡県飯塚市飯塚10-27	飯塚571
郡山竹志推	埼玉県蕨市塚越2丁目10-16	
渡辺悱大6	千葉県市川市八幡5丁目8-12	
三輪三左男大7	東京都台東区三輪2丁目9-8	
宮内一郎2	長崎県長崎市銅座町6-10	
山際源二郎2	三重県伊勢市河崎1丁目5-31	
畑孝肇3	北多摩郡田無町南町3丁目2-5	
西堀一夫6	(診)東京都品川区西五反田1丁目5-2 トライビル	
百瀬勇逸6	長野県松本市中央1丁目10-1	
山本順三7	東京都北区王子本町1丁目24-8	
福島蔽8	埼玉県蕨市中央5丁目16-1	蕨(31)3771
向山英三8	北海道函館市豊川町6-16	

赤 沢 実	9	(自)東京都葛飾区亀有5丁目11-11 (勤)東京都足立区東和4丁目7-11 日立製作所亀有工場病院歯科	(605)2570 (605)2479
須 田 為 紀	12	山梨県甲府市伊勢3丁目14-6	
下 田 俊 朗	14	東京都足立区竹の塚2丁目29-12	(884)2306
依 田 秀 雄	15	山梨県甲府市伊勢4丁目13-10	
伊 藤 嵩	16,12	大阪府池田市神田1丁目1-12	
木 村 亮 治	16,12	東京都世田谷区上北沢5丁目10-13	(303)2180
長 山 陽 吉	22	愛媛県宇和島市御幸町2丁目4-1	
郷 村 将 将	24	東京都中野区鹭宮3丁目18-1	
松 田 昭 昭	24	福井県大野市大和町4丁目6-2	
岡 駒 雄	26	東京都豊島区南池袋3丁目25-15	
田 辺 明 明	26	東京都調布市国領町1丁目33-8	
宮 内 孝 雄	27	長崎県長崎市銅座町6-10	
空 田 忠 忠	28	東京都江戸川区南小岩8丁目9-1	
横須賀 誠 道	29	東京都墨田区吾妻橋1丁目16-10	
阿 部 春 美	30	東京都世田谷区桜上水5丁目23-7第2立花荘	
浦 野 潤 吉	30	富山県高岡市白金町5-38	
高 橋 重 雄	33	東京都保谷市東伏見4丁目2-10	
高 梨 恒 一	34	東京都文京区千駄木5丁目19-3泉山荘22号室	(827)6830
高 梨 吉 郎	35	広島県福山市城見町1丁目3-33	
林 一 子	35	東京都品川区荏原3丁目6-15	
吉 田 朔 也	35	東京都文京区千石2丁目33-10小石川マンション302号	
高 梨 和 子	36	東京都文京区千駄木5丁目19-3泉山荘22号室	(827)6830
西 堀 浩 史	36	(診)東京都品川区西五反田1丁目5-2トラヤビル	
浜 野 直 彦	36	千葉県千葉市大宮台6丁目13-5大宮団地128-5	
浜 野 千 恵 子	36	千葉県千葉市大宮台6丁目13-5大宮団地128-5	
深 沢 亮 亮	37	山梨県甲府市伊勢4丁目13-10	甲府(3)7501
福 島 敏 夫	39	埼玉県蕨市中央5丁目16-1	蕨(31)3771
【電話番号変更】			
石 田 英 二	7	兵庫県宝塚市仁川榊塚46-54	西宮(51)1108
【改姓・改名】			
小 山 昌 道	38	東京都田無市265タナシグリーンハイツ2-11	田無(62)8939
(旧姓名除昌且)			
高 橋 明 宏	39	広島県福山市松永町696	
(旧姓正木)			
【名簿訂正】			
鈴 木 央 医		東京都豊島区雑司が谷2丁目9-4……………附録(その6)	
江 崎 清	3	長崎県佐世保市光月町4-24……………附録(その6)	
楊 井 益 三	15	山口県玖珂郡錦町広瀬	
鈴 木 彊	22	東京都豊島区雑司が谷2丁目9-4……………附録(その6)	
江 崎 梅 太 郎	30	長崎県佐世保市光月町4-24……………附録(その6)	
吉 永 達 夫	7	神奈川県川崎市南幸町2の3	

支部のうごき

▼世田谷支部(世水会)

臨時総会並に新年会

日時 昭和四十二年一月十日(土)午後六時半
場所 京王線、明大前「山晴」

出席者 約五十名
来賓、田丸将士会長、大井清教授、渡辺富士夫教授、高橋庄二郎教授。

世水会々則制定

昨年四月、役員改選により、後藤芳郎会長より渡辺正信会長に、パトナタッチされた世水会は、同月中旬に事業計画の一端として、早急に世水会々則を制定する事に決定。早速、会長、菊池美彦副会長及鹿野悦生理事を中心に、会則の研究に着手、八月中旬に会則案を作製。同月中旬に理事及ブロック長会に計り、二、三訂正、追加をして、本日臨時総会を開き、渡辺会長提案、説明を行い、全項目、万場異議なく可決、決定をみる。

会員を一、二種及高令会員及特別会員の四つに分類し、七十才以上を高令会員として、特別会員と共に、支部の会費を免除する事に決定をみた。渡辺昌夫氏(日歯副会長)より高令会員の資格について、参考意見が出る。理事会に一任と決定される。次で田丸会長より本部の会費について、興味ある発言を戴き、大いに参考となる。会則に細則の項をもうけ、会員及家族

の冠婚葬祭の場合の祝儀等の金額を

こまかく決定する。尚本会は第五条に於て、会務運営上、ブロック制を設け、ブロック長が会員相互に会務の伝達及連絡を推進して、会の運営をすみやかにしている。尚本会にクラブの制度を設け時節柄、ゴルフクラブが真ッ先に出来て、既に二回コンペを行い、大いに会員相互の親睦と健康の役目を果している。また委員会の中に会誌編集委員会が出来て、これも十年程前に一回だけ発行されていたのを、再び刊行、継続事業として行ふ事に決定。丁度当日会誌が出来て、全会員に配布をする。これも親睦、団結に大いに寄与する事と信ずる。再刊第一号に本日来賓の田丸会長及大井教授より一文を寄せらる。次で監事二名、渡辺会長より指名があり、後藤芳郎及両角彦一両氏の監事が決定をみる。以上で面倒な臨時総会を終り、新年宴会に移る。

新年会

それ迄目の前の御馳走はおあづけ、いよいよ河村喜久治氏の音頭で乾杯、酒宴が始まる。田丸会長より同窓子弟の入学問題に就て、興味ある話が「さわり」の部分に就てあり、入学期を控えた子弟を持たれる会員に耳を傾けさせた。シベリヤ寒波の襲来により非常に冷え込む晩であったが、先輩、後輩の別なく、和やかな雰囲気の中、宴はなかなかつきず、新宿方面へ二次会に流れた人達も多く、和気藹々の中に会を閉じた。尚寒中、御多忙にもかかわらず御出席を戴いた四氏に厚く御礼を申し上げます。
(一月十六日 森田記)

◇逝去会員

医小笠原 忠衛 四・九・八 愛知
推竹島 照享 四・二〇・六 新潟
推川口 愛次郎 四・二〇・六 秋田
大13 上野 義輝 四・二二・三 千葉
3 石橋 一四・二二・三 福岡
推土子 太伊蔵 四・二二・三 茨城
推田部井己之八 四・二二・三 群馬
大15 岩沢 易四 四・二二・三 神奈川
医田端 安治 四・二二・三 埼玉
14 上村 年四 四・一六 宮崎
7 佐藤 正四 四・一六 杉並
推梅田 新平 不詳 愛知
推保坂 直四 四・二二 兵庫
推今井 俊四 四・二二 兵庫
大5 梶井 信夫 四・二二 山口
13 鮎瀬 国衛 四・一八 栃木
推小沢 由太郎 四・一三 秋田
推近藤 通四郎 四・一三 神奈川
謹んで右の方々御冥福を心より
お祈りいたします。

住居表示の変更お知らせ

東東歯科大学・東京歯科大学病院の住居表示が本年4月1日より、つきのように変更されますので、お知らせ致します。

東京都千代田区三崎町
2丁目9番18号



世界の歯科医院に奉仕する **モリタ**



森田歯科商店
東京・大阪・京都・北九州・名古屋・福岡・和歌山
ロスアンゼルス



スペースライン
チェア・ユニット

獲得!!

U.S.A. PAT.

インスツルメントを
先生の手許に
集結!

- 仕事が速い!
- 楽です!
- 疲れません!

U.S.A. PAT. 3198574

森田製作所
京都市伏見区東浜南町680

クラス会だより

東遊会

皇居拝観―秋期懇親会

昭和四十一年十一月十六日午前十一時より会員杉江文昭氏の斡旋により皇居拝観の運びとなり、栞便門に集った会員及家族は六十数名。

鳩翔り時雨空なる栞便門

皇居内の拝観巡路の説明を伺い案内につれて、修理中の富士見櫓を右に乾門通りに出れば、はるかに新宮殿新築中の鉄骨錆びどめの色もあざやかであった。宮内庁前を過ぎれば運池に鴨、おしどり、白鷺、等がのどかに羽を休めている。

芦枯る、濼に小鴨のたむろせる

吹上御苑紅葉そことの曇り

はるかなる御文庫押し冬の襟正す西詰橋より天主閣跡を廻り薬部を経て急坂なる汐見坂を降って白鳥濼を右に旧本丸を過ぎる。

旧本丸石垣堅く野菊咲く

整然と石垣冬にゆるぎなし

再び栞便門に出て記念撮影も会員の手で皇居にお別れし、当日午後四時から秋期懇親会まで一と先づ散会した。

秋期懇親会後は楽園前の東京観光園で四時より開いた。集る者六十数名、在京並びに近県の千葉、神奈川、埼玉、群馬、栃木、等は申すに及ばず長野県より中沢昭一郎君、河野淑人君、三宅俊造君、矢島茂久君の四名、遠くは岩手県所沢市の齊藤富太郎君

の参加を得る。母校より新旧学長並びに田丸同志会長のご臨席（大井先生は出席通知のところお風邪の為め御欠席は残念）を得て気勢大いになる。

井上会長の誠意あふれる開会の挨拶三輪副会長の庶務及会計報告をなし近去会員山浦土雄君に対し厳肅なる黙禱を捧げ冥福を祈った。

続いて恒例の喜寿となられた御目出度い会員五十嵐庭治氏、上田貞三氏、上田千之氏、田口喜一郎氏、小山近由氏、小椋善男氏（以上出席）萩野利一氏、小野寅之助氏、加賀永一氏、岡部常吉氏（以上欠席）に記念品を贈呈して長寿を祝し、益々健康であられることを祈念した。

五十嵐庭治君（生年月日記入のミスで二年前に贈呈すべき方）の謝辞があった後、井上会長より来年春季役員は任期満了となるのでこの際役員改選を行いたい旨を語り、留任説も出たが相当長い期間その職にあつたから是非辞任させて欲しいと確い決意を詳しく述べられた。

上田貞三君は井上会長留任せなくば、宴席に移らない、との手きびしい説を出し会長たじたじ。それでは任期の半ば二ヶ年だけお引受けすると述べ拍手。

学長杉山先生、同窓会長田丸先生、旧学長、特に今回叙勲を受けられた福島先生の御挨拶を戴いた後、上田貞三君の音頭によって一同乾杯してお互の健康を祝した。

歓談又歓談、刻のうつるもの知らずに懇親会の夜は更けた。（地挽記）

蜂和会

昭和十二年卒

新春昭和四十二年全国蜂和会諸兄の御健祥と繁栄を心より深く御喜び申し上げます。容易ならざる人世航路五十有余年共々御苦勞様。最近の歳月の流れの早い事。鳥羽の国際観光ホテルに於て次回を東京と満場一致決定し、別れて早くも三年、新緑薫る五月連休の混雑をさけてホテルニ

故佐藤正君を悼む

原島通

私の親友であり、三辰会員の一人である、故佐藤正君には一月六日（午後十一時、不幸、突如として永眠され、不帰の客となられた。真に御家族の皆皆様の気持ちを御察し致し、痛惜の念に耐えませぬ。貴君の在りし日を偲び、地下に眠る靈に対して、深く哀悼の意を表します。

君も自分も大正十二年、淀橋の日本中学校に入学、昭和三年三月、同校を卒業し、四月に偶然再び一緒に東京歯科医専に入学、そして四年間の学窓を共に過ごして昭和七年三月卒業。計九年の長年月、机を並べて勉学してきた者である。回顧するに、君は中学時代から無口で、真面目で、頭脳明晰、五ヶ年間、学級長としてクラスの信頼厚く、東京歯科へ入学後も、不言実行、卒業時の成

ニ大谷、廻る夢の殿堂に、皆様を御迎えする事に成りました。その間、在京蜂和会員（三十数名）は繁忙と犠牲を省りみず諸兄等に会いたい一心に一団となって鋭意準備中でありました。既に御でもとに案内書は全部到着の事と存じます。何卒その節は何は忘れても奥様の御同伴は絶対に御忘れぬ様心より御待ち申上げ御案内申し上げます。前回事情で御参会出来なかつた会員は必ず必ず御出席の程を。一人の出席は皆が会える。メキシコでなく都の空の下で、不明の点は長尾、佐藤迄。蜂和会在京会員職務分掌

績も優秀で、全くの模範生として、父親の歯科医業を継承されて、盛業を続けておられました。きくところによると、「ラボ」の仕事も自身でやらねば気が済まないという真面目さで、三辰会の幹事及び幹事長も勤めるといふ「ファイト」の持ち主でもあった。昨年近江の琵琶湖に、御夫妻で出席、三辰総会としてのホテル紅葉の会合が最後となって終わりました。常、日頃、何の病氣もきいたことがなかっただけに、君の計報に接した時は佐藤君の家の誰かとき返すす始末でした。今や幽明境を異にする悲しみは何にたとえようもありません。願わくば在天の靈、安らかに冥せられんことを。御遺族として御長男、正紀君が専門課程三年に在学しておられることがせめてもの幸である。

4つの色調で広範囲な用途

カラープロテクトセメント

歯髄保護と同時に永久合着裏装に好適
菲膜度が薄く、前装歯に賞用されます。

東京・渋谷 ネオ製薬工業株式会社

◆ 包装 ◆

ライトイエロー	30g	¥ 280
ジンジバルブラウン	30g	¥ 280
ライトグレー	30g	¥ 280
ゴールドンブラウン	30g	¥ 280
液	50g	¥ 200
1セット		¥ 1,200

クラス会だより

総務、大村光晴、上山悦郎、日下健、佐藤武正、長尾英典

会計、今野忠夫、押見宏、永井銀三郎
 渉外、北村尚信、中尾一彦、岩永行
 正、齋庭格太郎、中山順弘、中
 村旭、末統真、伊藤吉蔵、北条
 信之助、相田孝信、高橋一夫、
 榎本太郎、飯田収三、渡辺泰一、
 佐藤文男、湯沢正興、山崎浩重、
 伊奈敏雄、竹内光春、古屋武、
 春野屯、尾上収。(佐藤武正記)

燦 志 会

昭和十六年卒

燦志会の皆様お元気の事と存じま
 す。久し振りにお知らせを届けま
 す。昭和四十一年度燦志会卒業二十
 五周年記念大会を福島県に於いて地
 元目黒、水口、相原、猪狩諸氏の多
 大なお骨折りに依り、卅六名の出席
 を得て盛會裡に行いました。昭和四
 十一年九月二十三、四、五の二泊三
 日で福島の飯坂温泉一楽荘に集合し
 本年度の総会を行いました。司会水
 口氏に依り地元世話人代表目黒氏が
 歓迎と開会を述べ、井上良和より燦
 志会の現在の姿と本記念大会実施の
 経過報告と地元世話人へのお礼を述
 べました。燦志会は今や全国を地形
 的に二分し、富山県、長野県、山梨
 県、静岡県以北を東とし会長に井上
 良和。西の会長に林幹雄氏、全国代
 表は山本為一氏です。総会は全国一
 本で行い、時折東または西で各々会

を行うものと致します。続いて会計
 報告を担当の小池千白氏が行い承認
 を得る。次に東部クラス選出評議員
 安藤氏より一、二報告あり当日総会
 で決定した事は、(一)毎年必ず一回全
 国大会を開催。場所については地形
 を考慮に入れ誰も交互に出席し得る
 様。(二)燦志会便りの発行。但しニュー
 ースの集り次第とし送り先は、東京
 都調布市仙川町一の一八井上良和
 宛。この辺りに来る久し振りに会
 った旧友は、四方山話に我慢し切れ
 ず次第にさわめき始める。名司会者
 水口氏の進行に依り一人持ち時間一
 分の個人現況報告に入る。なかなか
 ユーモアに富み持ち時間で終ろうと
 せず全員お腹をかかえて次を待つ次
 第でした。懇親会に入り飯坂温泉の
 名花数名登場。飯坂音頭をかわきり
 に、ついにには歌も聞こえない程の雑
 談、笑声に天井もゆるがばかりの
 賑かさで十二時をまわっても未だつ
 きざる状況でした。各自部屋に帰っ
 た後も話は明方迄続いた模様です
 た。総会当日の第一夜は明け翌二十
 四日は大型バスで磐梯吾妻スカイラ
 インの観光に午前九時小雨の飯坂温
 泉を後にし、細かい雨の中をスカイ
 ライン入口の高湯温泉迄来た頃は霧
 で視界五十米。白樺平を過ぎ高さ七
 十米の不動沢の橋は全く見えずにが
 っかり。幸い浄土平に着いた頃より
 霧は晴れ吾妻小富士の雄大な姿を左
 に、燦堯寸前は一切経山の噴煙を右
 に眺め、標高一、六二二米の最高峯

を経て道は下り坂となる。車中ビー
 ルビンの蓋がボンボンと軽音を発し
 加えてカメラのシャッターの音もし
 きり。車は裏磐梯の小野川湖、秋元
 湖、檜原湖そして遠く猪苗代湖を望
 み乍ら土湯峠を経て裏磐梯に向かい
 ました。途中日本最小型という汽車
 ポップ沼尻鉄道を横切る。この汽車
 は冬になると火鉢を持ち込むのだそ
 うで誰となくお土産に一台ほしいな
 の声あり。眼前に近寄って来た猪苗
 代湖を左手にして五色湖に到着。昼
 食の弁当は味も上々、然し九月に似
 ずの寒さに上下の歯をがくつかせ年
 らしばし沼の色に眺め入る。続いて
 猪苗代湖畔東園ゆかりの野口英世博
 士生家及記念館を見学し、吾々の先
 輩にかの偉大なる人のいたるかと、
 その遺徳をしのんだ後、再びバスに
 戻る。乗物の疲れか昨夜の疲れか、
 ウトウトする者ある中を四十分程で
 会津若松藩の本陣跡に到着。柱に残
 る弾痕、刀の斬痕を見てしばし昔の
 戦をしのぶ。次いで福島県最大の名
 所白虎隊自刃の跡を見最近の若者と
 比較し頭を下げる。若松城を見学し
 午後六時東山向滝温泉に到着しまし
 た。宴会で名物白虎隊の舞いを観賞
 し、会津祭の呼び物一万人の盆踊り
 を見物に出掛け、一応の予定コース
 を終る。か様な行事は毎年実行して
 ほしいの申しきりで、来年は西方面
 でと希望。三十周年記念大会は武田
 氏にお願ひしてハワイ旅行を計画し
 ている次第です。卒業二十五周年記
 念クラス会終りの挨拶があつても未
 だ話し足りず呑み足りず、二次、三
 次会と御前様となる迄続きました。

翌日廿五日は台風来るで、汽車は止
 まる、ダイヤは乱る、お客は困る、
 で帰路は散々となりましたが地元先
 生の御配慮に依るお土産品を手に数
 々の想い出多きクラス大会を終り再
 会を約しつつ旅館を後にしました。
 当日の出席者は、

入江政明・松本宣洞・山辺知巳・脇
 田 進・野村益朗・牛久保喜一・佐
 藤心一・井上良和・富樫 康・小池
 千白・花岡 広・高宮昌美・堀内鎮
 男・安藤 正・平岡光一・名波佐智
 夫・岩本正三・新保正美・猪子寿一
 ・紀陸一夫・田部井三男・井田 実
 ・小島健一・柴田光雄・渡辺 豊・
 山下達朗・佐和重美夫妻・河内次男
 大久保忠則・矢島敏夫・野口 陽・
 久松正章・水口 栄・相原健男・猪
 狩一郎・目黒敏一郎(以上井上記)

仁 蜂 会

昭和十五年卒

皆さんお元気ですか。昨年は、関
 西の諸君の絶大な尽力で、実に素晴
 らしい「紀州旅行」アルバムが完成
 し、五月ゴールデンウィークには恒
 例のクラス旅行は、山陰の秋庭、村
 田、森戸、伊藤の諸君のお世話で無
 事盛大に終り、秋には、東京では築
 地「治作」で学会出席の地方の諸君
 と、関西では、岡山の滝、進藤、
 豊泉、木本君たちと関西の諸君が瀬
 戸内海の六口島で気焔を挙げ、暮に
 は、東京勢が新宿御苑飯店で忘年
 会、岐阜では、田口、堤二名が参加
 して忘年会と、仲々賑やかな一年で
 した。

二世の東園大在学、あるいは入学
 もこれまた賑やかで、この春には、
 久振りでしょう。一世と二世の合同会を如
 何でしよう。状況を連絡下さい。
 長らくの念願の海外旅行も、堤君
 (歯科ペンクラブ)の許で計画が発
 表され、現在の所約十五名の参加が
 殆ど確定しており、文字通り「クラ
 ス会はバリーで」のスローガンが実
 現近くなりました。行程十八日、費
 用五十五万で、経費は頭金五万五千
 円、あと二十四ヶ月払(月約二万二
 千円)のシステムもあるので大いに
 利用して参加下さい。
 なお、恒例の国内旅行計画もあり
 ますので一月二十八日(土)午後六時



クラス会だより

から新年会を新宿で開催、相談します。ので大いに意見を寄せて下さい。
(幹事案は四国と北陸の二案です。)

52 期 会

昭和二十二年卒

十一月二十二日、北海道より上京の船本達世君を迎え、東京会開催。本年のクラス会は北海道で八月二十日すぎに家族同伴で開催する。多数諸兄の参加を希望しています。北海道在住の諸兄、宜しくお願いいたします。次にアルバムの件、写真未送の方、至急、東歯大病理田熊宛お送りください。できれば本人の写真、家族全員の写真、簡単な近況報告、と三つお送り下さい。本年も相変わらず何かとお忙しいことと思います。諸兄の健康を祈ります。

(幹事 山崎文夫記)

いそむ会

昭和二十六年卒

明けましてお目出とうございませう。いそむ会諸兄姉各位には、益々御壮健にて意気深い新春をお迎えの事と拝察致します。昨年七月には、北海道の佐藤敏郎、齊藤庄司、橋本尚、武田勉の四君の肝入りで、総会を登別温泉第一流本ホテルで盛大に開催することができ、全日空事故にも拘らず多数の参加者を得たことは皆々様の御支援の賜と深謝しております。

ます。その際、年度の幹事交代があり、新しく塚田隆君と森野俊雄君が選任されました。前幹事員塚雅信君と真砂義昌君の御苦勞に対して改めてお礼申し上げます。従って、現在の幹事は、大森、武石、松山、鈴木(和)の三君およびの常任幹事の他、岡駒雄、中野年朗、塚田隆、森野俊雄の四君ということになります。どうぞ、今後のいそむ会総会その他運営方面についても、御意見、御叱正を賜わりたく願ひ上げます。なお、私事で恐縮ですが、いそむ会の皆様御支援御芳志により、昨年の国際会議出席は殊の他、順調に効果を得られましたのでこの項をお借りして、改めて深く御礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。会員の皆々様の御多幸を念じつつ。

(鈴木和男記)

六 喜 会

昭和三十三年卒

第八回六喜会総会は十一月十二日(土)東京は大森海岸の「福久良」で盛大に開催されました。この総会で決定した重要なことは、年度会費が来年より五百円になったことです。よろしくお願ひ申し上げます。出席会員は次の通り五十七名に達しました。(名簿順)
足立、坪根、原田、服部、林、穂坂、今泉、岩松、木田、佐藤(裕)、齊藤(一)、中路、志村、田中(幸)、



谷口、渡辺(屋)、矢頭、新井、浅井、原(憲)、堀江、市之川、飯島、宮原、守谷、中川、枝、小川、大橋、大和田夫妻、佐々木(正)、鈴木、轟、稔、東、田沢、渡辺(公)、渡辺(郁)、渡辺(晋)、相庭、荒川、寺木、星野(茂)、市川、井上昇、楠崎、道脇、長塚、中村、大住(英)、佐竹、瀬田、田部井、多田、田代、植田、上野

なおこの日、第二回六喜会ゴルフ大会が千葉総武カントリークラブで行なわれたが、六喜会杯は原次君が獲得されました。(幹事記)

一 期 会

昭和二十八年卒

◇去る十月二十二日、第十四回一期会例会を都内向島桜茶屋にて開催致しました。

遠地、宮崎より航路、馳せ参じました卒業後初めての嶽崎兄を含め総計四十八名、例年通りの盛況な会となりました。加えて、杉浦・塚本両兄の初参加は会の雰囲気を一層温暖まるものに盛り上げてくれました。

◇会長挨拶、庶務ならびに会計報告後、次回総会(昭和四十三年)の開催地についての試案の報告を致しました。未だ決定しておりませんが、会員諸兄のご希望をお寄せ下さいますようお願い致します。

◇例会に引き続き、羽質、関根両兄の教授昇任祝賀会を行いました。両兄には銀盃を贈呈し、一期会としての喜びを伝えました。



補綴第二ならびに第三講座主任として語る両兄の抱負は誠にたのもしく、今後のお活躍は特に刮目に値するものと言えませう。
◇欠席を余儀なくさせられた各位には、会の状況を十分お知らせ出来ないことをお詫び致します。
向寒の折、会員諸兄のご健勝をお祈り致します。(坂田三弥記)

発行所 東京都千代田区神田三崎町一ノ七

電話 東京(二六二)三四二一(代) 会
編集兼発行人 渡辺 昭 士 夫